

中学校

平成 7 年 度

# 教育研究員研究報告書

社 会

東京都教育委員会

平成7年度

## 教育研究員(社会部会)

分科会	氏名	学校名
歴史的 分野	荒井亮宏	新宿区立淀橋中学校
	○林昭文	墨田区立寺島中学校
	小林幹	大田区立大森第七中学校
	市村扶二夫	世田谷区立桜丘中学校
	平出理恵子	練馬区立石神井南中学校
	星賢	葛飾区立新宿中学校
	◎石川仁	江戸川区立西葛西中学校
	木下美彦	福生市立福生第二中学校
公民的 分野	亀島正良	中央区立佃中学校
	○関基雄	北区立田端中学校
	遠山正彦	足立区立上沼田中学校
	山本静昭	八王子市立第七中学校
	斉藤雅彦	調布市立第三中学校
	菊池和芳	町田市立南中学校
	岡四朗	国分寺市立第五中学校
	石井和光	東大和市立第四中学校

◎ 全体世話人    ○ 世話人

担当 指導部中学校教育指導課指導主事 松本秋広

# 目 次

I	主題設定の理由	2
II	歴史的分野の研究	3
1	主題設定の理由	3
2	研究のねらい・方法	3
3	指導計画	4
4	検証授業	6
5	アンケート分析	9
6	資料	11
7	研究のまとめと今後の課題	13
III	公民的分野の研究	14
1	主題設定の理由	14
2	研究のねらい・方法	14
3	指導計画	15
4	検証授業	16
5	検証授業の考察	21
6	研究のまとめと今後の課題	23

主体的な活動を通して、生徒の学ぶ意欲、興味・関心を高め、思考力を育てる指導方法の工夫

## I 主題設定の理由

現代社会は科学技術の進歩と発展に伴い、豊かになったが、社会の変化は激しく、人々の生活様式や価値観は多様化し変容を続けている。今日、国際化、情報化、高齢化とともに、変化は拡大し、加速化が進んでいる。また、このような社会の変化は、学校教育そのものの変革を強く求めている。

今日、生徒の実態をみると、情報化社会の中であって、知識偏重の風潮や希薄化した人間関係が生徒の視野を狭め、社会的事象に対する興味・関心を弱める原因と考えられる。また直接経験の不足は体験を基とする思考力を弱め、生徒が物事を自分の眼や耳で正面から見、考え、深める力を弱くしている。従って生徒は社会的事象に対して「受け身」になり、社会の変化に対して主体的に対応する力が欠けることになる。

変化する社会でたくましく生き抜く力を育てるためには、社会の変化に主体的に対応できる資質や能力を身に付けさせることがますます重要になっている。とりわけ、学習に対する関心・意欲・態度は、生徒が生涯を通じて学び続け、社会に対して積極的に生き抜くためには、特に高めなければならない重要な資質である。

今日まで、社会科の授業では教材の精選、視聴覚機器の導入、実物資料の活用、体験学習の推進と様々な工夫改善が進められてきた。しかし、生徒が消極的で、教師の指示を待つ受け身の姿勢が強くなっている中では、授業に対する興味・関心を引き出せても、生徒が自ら考え学ぶ意欲を育てることにはならない。我々は、従来からの知識・理解中心の教師主導の授業の改善を図り、学習課題を生徒自らが発見し、主体的にとらえ、考え、すなわち生徒の主体性を育てる授業展開の工夫を進めなければならないと考える。

中学生の発達段階は、心身の発達が著しく、自我が確立し、物事に対する興味・関心と思考する力が急速に伸び、個性の多様化が一層進む時期である。生徒は自ら課題に取り組むことにより体験を積み、視野を広め、思考力を育て、自己の個性、能力をのばしていく。本研究では、この生徒の特性を生かした授業展開を進めるため、生徒が主体的な活動を通して、学ぶ意欲、興味・関心を高め、思考力を育てる指導方法を工夫することにした。

生徒が主体的活動を進めるに当たって、基礎的・基本的内容の徹底を基に、生徒一人一人の個性を生かす課題の設定と活動方法の工夫を図る。生徒は学習課題に取り組むことにより、学習課題を発見し、身近な問題として課題に対する意識を高める。この課題に対する意欲、興味・関心を基に、より具体的に様々な社会背景や見方考え方を考察する活動を進め、思考力を育てる。このことにより生徒が社会に対して積極的に対応する力を身につけることを目標とする。

以上の観点から上記の研究主題を設定した。研究は下記の通り分野別に進めた。

- 1 歴史的分野は、人物学習を通しての指導方法の工夫をする。
- 2 公民的分野は、主体的な学習活動として調査、発表、討議により進める指導方法を工夫する。

## Ⅱ 歴史的分野の研究

主体的な活動を通して、生徒の学ぶ意欲、興味・関心を高め、  
歴史的思考力を育てる指導法の工夫 - 人物学習を通して -

### 1 主題設定の理由

歴史的分野の学習において、これまで知識中心の学習に陥りがちであったが、社会が変化している現在、自ら学ぶ意欲を高め、思考力や判断力などを伸ばす学習が一層求められている。

そこで、歴史上の人物を中心に考察し判断することに重点を置いた学習を通して、上記の主題に迫ることにした。

それは人物学習において、人物の時代とのかかわりを調べる中で、生徒が主体的に活動し、具体的な興味・関心をもたせることができ、さらに人物の行動を通して人物の歴史的役割を発見することで、歴史的思考力を深めることができると考えたからである。

### 2 研究のねらい・方法

#### (1) ねらい

ア 調査・発表・討論を通して、生徒が主体的に活動できる指導法の工夫をする。

イ 人物学習を通して、歴史学習に対する生徒の興味・関心を高める指導法の工夫をする。

ウ 人物の果たした歴史的役割を理解させ、人物や歴史的事象に対する多角的な見方を育成し、歴史的思考力を高める指導法の工夫をする。

エ 人物学習を単なる人物そのものの理解にとどめるのではなく、人物を通して時代の全体を理解させる内容構成となるよう工夫する。

#### (2) 方法

上記のねらいを達成するため、主として以下の内容の工夫改善について研究する。

ア 資料面から人物学習にふさわしく、また、生徒が興味・関心を抱き易い時代である「幕末期」を取り上げ、10時間構成で指導計画を作成する。

イ 多様な学習活動を取り入れ、効果的な学習となるよう工夫する。

- ・調査活動にあたっては、調査カードにより調査のポイントを明確にし、分担をはっきりさせ、班員一人一人が活動できるような学習活動を取り入れる。

- ・発表時には発表内容メモを使い、発表班員以外の生徒もその人物や時代の学習に主体的に参加できるようにする。

- ・討論や劇化など生徒が主体的に学習できる学習活動を取り入れる。

ウ 人物調べをもとに歴史新聞を作成させることで、学習のまとめとする。

エ VTRや写真等の視野に訴える教材を活用する。

オ 研究のねらいを達成するために、検証授業を行い、指導案の改善を図る。

カ 事前と事後に実態調査アンケートを実施し、生徒の変容を把握する。

キ 発表内容メモや歴史新聞により歴史的思考力の深まり度合いを把握する。

### 3 指導計画

#### (1) 単元名

[幕府政治の行き詰まりと開国]

#### (2) 単元の目標

ア、幕末期の国家や社会に影響を与えた歴史上の人物の学習を通して、歴史的事象に対する関心・意欲を喚起させて、主体的に学び続ける態度を育成する。

イ、幕末期の人物調べや年表・地図の作成を通して、資料収集・整理の技能を高め、また発表の仕方を工夫させることにより表現力を養う。

ウ、幕末期の諸事象の因果関係を考えさせ、歴史上の人物や事象についての様々な評価・見方ができる力を育てる。

エ、幕府政治が行き詰まり、欧米諸国の接近により社会の変革が求められ、幕府が滅亡に至るまでのあらましを理解させる。

#### (3) 指導計画

※ ( ) は、その時間に重点的に評価する観点

時	学 習 内 容	学 習 活 動	指導上の留意点
1 時	幕末史の概略(1)  (関心・意欲・態度、知識・理解)	(1) 坂本竜馬のVTRを見て、本単元の概略をつかむ。  (2) 略年表を完成する。	(1) 別紙の年表を参照させ、より具体的に概略をつかませる。  (2) 教科書・資料集を活用させて、個々に概略を確認させる。
2 時	幕末史の概略(2)  人物学習の事前指導  (関心・意欲・態度、技能・表現、知識・理解)	(1) 前時に作成した年表に登場する主な場所の地図上の位置を確認する。  (2) 調べる人物の選択を班単位で決定する。  調べる人物一覧 [大塩平八郎, ペリー, 井伊直弼, 吉田松陰, 西郷隆盛, 徳川慶喜]	(1) 地図プリントを使用し、地理的条件についても関心をもたせる。  (2) 調べる際の方法・項目や注意事項を明確に示す。
3 時 〜 4 時	人物調べ(1)  人物調べ(2)  (技能・表現)	(1) 班ごとに与えられた課題をふまえ、人物調べを行う。  (2) 発表の準備を行う。	(1) 適切な資料を選択できるように、援助する。  (2) ねらいにそった発表ができ、また全員が参加できるように配慮する。

5 時	幕府政治のゆきづまり  (技能・表現, 思考・判断, 知識・理解)	(1) 大塩平八郎について調べたことを発表する。  (2) 資料を活用して, 大塩平八郎の乱の背景や意義について考える。  (3) 天保の改革についてまとめる。	(1) 大塩の人物像や幕府政治に対する不満が理解できるような発表を行わせる。  (2) 当時の社会の動きと関連させて, 乱の内容やねらいを明らかにさせる。  (3) VTRとプリントを活用し簡潔にまとめさせる。
6 時	開国と不平等条約  (技能・表現, 思考・判断, 知識・理解)	(1) ペリーについて調べたことを発表する。  (2) 日本人が来航した外国人をどう感じたかを話し合う。  (3) 不平等条約の内容を整理する。	(1) 世界史の流れをふまえて黒船来航をとらえさせる。  (2) 似顔絵を活用し, 話し合いをさせる。  (3) 不平等な点は, 南京条約をふまえ簡潔に扱う。
7 時	尊王攘夷  (技能・表現, 思考・判断, 知識・理解)	(1) 井伊直弼と吉田松陰について, 調べたことを発表する。  (2) 両者の考えについて, 話し合わせる。	(1) 両者の考え方の違いがわかるような発表を行わせる。  (2) 国難に際し, 真摯に取り組む両者の姿がとらえられるように配慮する。
8 時	幕府、倒れる  (技能・表現, 思考・判断, 知識・理解)	(1) 西郷隆盛と徳川慶喜について調べたことを発表し, 劇化する。  (2) 幕府が倒れるまでの流れを整理する。	(1) 倒幕に際し, 様々な思惑や考えがあったことを理解させる。  (2) プリントを活用して, 簡潔にまとめさせる。
9 時 ～ 10 時	まとめ  (関心・意欲・態度, 技能・表現, 思考・判断, 知識・理解)	(1) 本単元で取り上げた人物について各自でまとめて, 歴史新聞を作成する。  (2) 何人かの生徒が作品を発表する。	(1) 歴史上で果たした役割や, 立場を踏まえての考えや行動であったことに留意させて, 各自の考えをまとめさせる。  (2) 様々な見方があることを理解させる。

#### 4 検証授業

(1) 本時の主題 [尊王攘夷]

(2) 本時の目標

ア 井伊直弼・吉田松陰について調べたことを整理して発表させる。

イ 発表を聞くことにより，二人の生き方・考え方などの違いを考えさせる。

ウ 発表を聞き，意見交換をしていくなかで，攘夷・安政の大獄・桜田門外の変などの歴史的事象を理解させる。

(3) 本時の展開

時間	学習内容	学習活動	指導上の留意点
導入 5分	学習内容の確認	<ul style="list-style-type: none"> <li>前時の復習を行う。</li> <li>本時の学習形態を確認する。</li> </ul>	質問・意見交換が活発にできるように配慮する。
展開 40分	<p>本時の時代背景</p> <p>班による発表</p> <p>意見交換</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>司会の生徒はペリー来航後の日本の様子を説明する。</li> <li>井伊直弼について発表する。 〔調べてまとめた模造紙を黒板に貼り説明する。〕</li> <li>発表後，質問を受ける。</li> <li>吉田松陰について発表する。 発表後，質問を受ける。</li> <li>両者の生き方・考え方の違い，開国の是非などをまず班で話し合い，でてきた意見を発表し合う。</li> <li>司会役の生徒が進行をする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>両者の生き方の違いができるように発表させる。</li> <li>攘夷，安政の大獄，桜田門外の変などの歴史的事象に触れているか確認する。</li> <li>班での意見交換中は各班を巡回し，話し合いの進まない班を援助する。</li> </ul>
まとめ 5分	本時の評価とまとめ	<ul style="list-style-type: none"> <li>本時の発表，意見交換の評価を行う中で，本時のまとめを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>評価は人物のまとめ方発表について意見交換の時，意欲的であったかなどについて行う。</li> </ul>

(4) 本時の評価

ア 担当の班は自分たちの調べたことを整理して発表できたか。(技能・表現)

イ 発表を聞いて自分なりの意見をもてたか。(思考・判断)

ウ 発表・意見交換のなかで当時の時代背景・歴史的事象が理解できたか。(知識・理解)

## (5) 検証授業の考察

### ア 人物発表までの学習のまとめについて

人物学習においては幕末に活躍した6人の人物を設定し、各班が一人ずつ選び、調査して模造紙にまとめていく方法をとった。その際、その人物の年譜・行った出来事・人柄・考え方はのせるようにという課題を与え、まとめ方・発表の仕方は各班で考えて行うようにした。事前に6人の人物を知っているかというアンケートをとったが、西郷は知っていると答えた生徒は多かったが、後の5人は知らないという生徒が多かった。予備知識があまりない状況で調査活動に入ったわけである。実際に調査活動に入ると最初のうちはなかなかうまくいかなかった。まず図書室に班員全員にいきわたるほどの本がない。そういうなかで徐々に班長を中心にそれぞれの役割分担が決まり、2時間目になると予備知識がない分その人物に興味をもって調べるようになった。ただ模造紙にまとめ、発表の方法を考えると2時間では足りず、放課後図書室に残って活動するようになり、図書室は大にぎわいであった。いったん調べが軌道にのると、もっと調べたいという班もあり模造紙1枚では足りないという班もあった。また調べた人物にインタビューをするという形でまとめるなどの工夫もみられた。そういう面で生徒の主体性が見られるようになった。

### イ 第7時の検証授業について

本時は井伊直弼と吉田松陰についての発表である。この2人は安政の大獄で処刑した側とされた側、幕府側と長州側の人物、日米修好通商条約を締結した人物と反対した人物、などの面で対比がしやすく生き方の違いから発表後どのように思ったか意見交換がしやすいところと考えた。

そういうなかで検証授業を行ったが、発表に関しては2つの班とも工夫をしており、井伊直弼の班は直弼の行ったことから自分なりに考え、良い面・悪い面に分けて発表し、安政の大獄を行った理由に関しては、台本をつくり会話形式で説明をした。

吉田松陰の班は「脱藩をした」「密航を試みた」「松下村塾のこと」を中心に松陰の生き方を描きだそうとしていた。直弼の班と同じように密航を試みる理由の場面は会話形式で行っていた。ともにしっかりした発表だった。

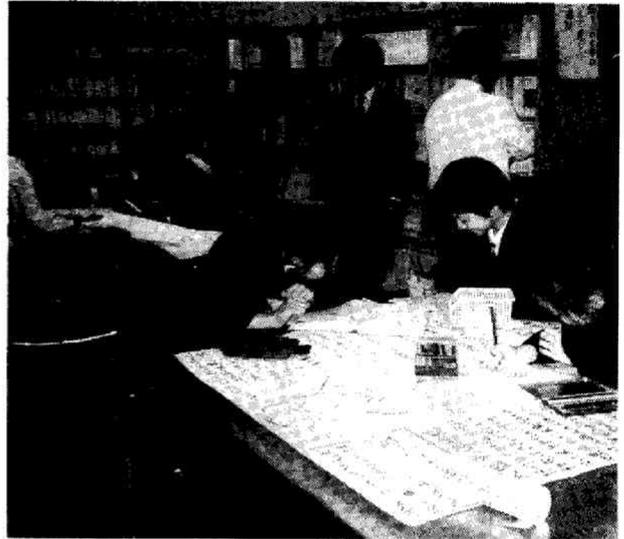
発表後は班で話し合い意見交換を行った。意見としては直弼の方がインパクトが強かったせいか直弼が独断で通商条約を結んだことに関する意見が多かった。ただ独断的でないという意見だけでなく、判断力がある、積極性があるなどの意見もでた。このことで人物に対して様々な見方ができるように、というねらいのひとつが達成できた。

### ウ 評価について

本時の授業は、人物について調べたことをいかにまとめ工夫して発表したか、また聞いている生徒は、その人物に対して自分なりの意見をもてたか、という点が評価の観点である。

結果としては2つの班ともに工夫をした発表をした。これは調査をしていくうちに関心・意欲が強くなり、その人物をいろいろな角度から見つめることができたからである。そして調べたことをうまく発表したいという気持ちになり、発表の技能・表現する力を





## 5 アンケート分析

### (1) 事前アンケート分析

中2年生生成分析計 5組

質問 1

1 歴史が好きですか。



質問 2

2 歴史の授業が好きですか。



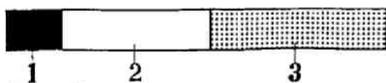
質問 3

3 歴史は暗記することが多いと思いますか。



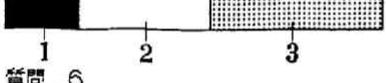
質問 4

4 歴史小説を読むのが好きですか。



質問 5

5 テレビの歴史ドラマを見るのが好きですか。



質問 6

6 好きな人物は？



1 歴史が好きですか。

選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	90人(48.9%)	77人(41.8%)	17人(9.2%)	184人(100.0%)
オトコ	68人(61.3%)	38人(34.2%)	5人(4.5%)	111人(100.0%)
オンナ	22人(30.1%)	39人(53.4%)	12人(16.4%)	73人(100.0%)

2 歴史の授業が好きですか。

選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	86人(46.7%)	85人(46.2%)	13人(7.1%)	184人(100.0%)
オトコ	81人(55.0%)	43人(38.7%)	7人(6.3%)	111人(100.0%)
オンナ	25人(34.2%)	42人(57.5%)	6人(8.2%)	73人(100.0%)

3 歴史は暗記することが多いと思いますか。

選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	154人(83.7%)	22人(12.0%)	8人(4.3%)	184人(100.0%)
オトコ	87人(78.4%)	18人(16.2%)	6人(5.4%)	111人(100.0%)
オンナ	87人(91.8%)	4人(5.5%)	2人(2.7%)	73人(100.0%)

4 歴史小説を読むのが好きですか。

選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	27人(14.7%)	72人(39.1%)	85人(46.2%)	184人(100.0%)
オトコ	19人(17.1%)	47人(42.3%)	45人(40.5%)	111人(100.0%)
オンナ	8人(11.0%)	25人(34.2%)	40人(54.8%)	73人(100.0%)

5 テレビの歴史ドラマを見るのが好きですか。

選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	36人(19.6%)	64人(34.8%)	84人(45.7%)	184人(100.0%)
オトコ	26人(23.4%)	33人(29.7%)	52人(46.8%)	111人(100.0%)
オンナ	10人(13.7%)	31人(42.5%)	32人(43.8%)	73人(100.0%)

6 好きな人物は？

選択肢 1大塩平八郎 2ペリー 3伊直実 4吉田松陰 5西郷隆盛 6徳川慶喜

	1	2	3	4
ケイ	7人(3.7%)	4人(2.1%)	5人(2.7%)	4人(2.1%)
オトコ	6人(5.4%)	3人(2.7%)	3人(2.7%)	4人(3.6%)
オンナ	1人(1.4%)	1人(1.4%)	2人(2.7%)	0人(0.0%)

	5	6	ケイ
ケイ	24人(13.0%)	7人(3.8%)	51人(27.8%)
オトコ	15人(13.5%)	6人(5.4%)	37人(33.3%)
オンナ	9人(12.3%)	1人(1.4%)	14人(19.1%)

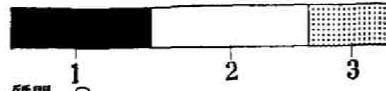
## (2) 事後アンケート分析

中2年生合成分析計 5組

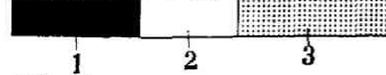
質問 1  
1 人物研究はおもしろかったですか。



質問 2  
2 選んだ人物に興味がありましたか。



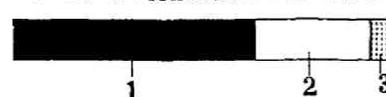
質問 3  
3 友達と意見を出し合うことができましたか。



質問 4  
4 図書を使つての調べ活動は楽しかったですか。



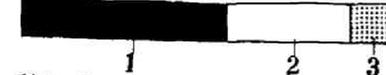
質問 5  
5 ビデオの視聴は楽しかったですか。



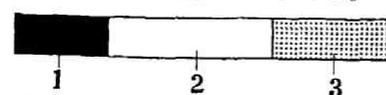
質問 6  
6 班で模造紙にまとめる作業は楽しかったですか。



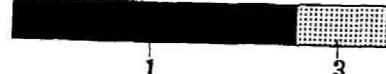
質問 7  
7 友達の発表を聞くのは楽しかったですか。



質問 8  
8 発表するのは楽しかったですか。



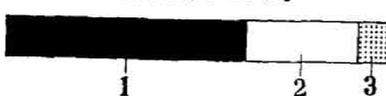
質問 9  
9 人物研究をもう1度やりたと思いますか。



質問 10  
10 人物研究は歴史の勉強に役に立つと思いますか。



質問 11  
11 歴史の授業は好きですか。



1 人物研究はおもしろかったですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	162(91.5%)	2(1.1%)	13(7.3%)	177(100.0%)
オトコ	99(90.0%)	1(0.9%)	10(9.1%)	110(100.0%)
オンナ	63(94.0%)	1(1.5%)	3(4.5%)	67(100.0%)

2 選んだ人物に興味がありましたか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	65(35.7%)	73(41.2%)	39(22.0%)	177(100.0%)
オトコ	46(41.8%)	38(34.5%)	26(23.6%)	110(100.0%)
オンナ	19(28.4%)	35(52.2%)	13(19.4%)	67(100.0%)

3 友達と意見を出し合うことができましたか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	59(33.3%)	46(26.0%)	72(40.7%)	177(100.0%)
オトコ	35(31.8%)	25(22.7%)	50(45.5%)	110(100.0%)
オンナ	24(35.8%)	21(31.3%)	22(32.8%)	67(100.0%)

4 図書を使つての調べ活動は楽しかったですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	154(87.5%)	2(1.1%)	20(11.4%)	176(100.0%)
オトコ	93(85.3%)	1(0.9%)	15(13.8%)	109(100.0%)
オンナ	61(91.0%)	1(1.5%)	5(7.5%)	67(100.0%)

5 ビデオの視聴は楽しかったですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	91(63.6%)	43(30.1%)	9(6.3%)	143(100.0%)
オトコ	64(71.9%)	18(20.2%)	7(7.9%)	89(100.0%)
オンナ	27(50.0%)	25(46.3%)	2(3.7%)	54(100.0%)

6 班で模造紙にまとめる作業は楽しかったですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	122(59.7%)	3(1.7%)	50(28.6%)	175(100.0%)
オトコ	71(65.7%)	2(1.9%)	35(32.4%)	108(100.0%)
オンナ	51(76.1%)	1(1.5%)	15(22.4%)	67(100.0%)

7 友達の発表を聞くのは楽しかったですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	97(54.5%)	58(32.6%)	23(12.9%)	178(100.0%)
オトコ	61(55.5%)	32(29.1%)	17(15.5%)	110(100.0%)
オンナ	36(52.9%)	26(38.2%)	6(8.8%)	68(100.0%)

8 発表するのは楽しかったですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	43(24.6%)	75(42.8%)	57(32.6%)	175(100.0%)
オトコ	28(25.9%)	42(38.9%)	38(35.2%)	108(100.0%)
オンナ	15(22.4%)	33(49.3%)	19(28.4%)	67(100.0%)

9 人物研究をもう1度やりたと思いますか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	131(74.4%)	0(0.0%)	45(25.6%)	176(100.0%)
オトコ	75(68.8%)	0(0.0%)	34(31.2%)	109(100.0%)
オンナ	56(83.6%)	0(0.0%)	11(16.4%)	67(100.0%)

10 人物研究は歴史の勉強に役に立つと思いますか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	165(93.2%)	2(1.1%)	10(5.6%)	177(100.0%)
オトコ	101(91.8%)	2(1.8%)	7(6.4%)	110(100.0%)
オンナ	64(95.5%)	0(0.0%)	3(4.5%)	67(100.0%)

11 歴史の授業は好きですか。  
選択肢 1はい 2? 3いいえ

	1	2	3	ケイ
ケイ	111(62.7%)	52(29.4%)	14(7.9%)	177(100.0%)
オトコ	83(75.5%)	20(18.2%)	7(6.4%)	110(100.0%)
オンナ	28(41.8%)	32(47.8%)	7(10.4%)	67(100.0%)

(3) 考 察

検証授業の事前と事後のアンケートにより、次のような生徒の実態をつかむことができた。

- ア 事前の質問1と2で、歴史あるいは歴史の授業が好きであると答えた生徒は約50%であるが、事前の質問4と5で、歴史小説やテレビの歴史ドラマが好きであると答えた生徒は20%以下である。歴史に興味はあるが、さらに一步踏み込んで積極的に学ぶ意欲が不足している。
- イ 事後の質問1で、人物研究がおもしろかったという生徒が90%を超えるが、事後の質問2での選んだ人物に興味があった生徒は40%以下であった。生徒は、人物研究という学習に興味、関心を示した。
- ウ 事後の質問6で、班で模造紙にまとめる作業は楽しかったですかという質問に対して？（どちらでもない）と答えた生徒が圧倒的に少なく、楽しくなかった生徒が30%近くもいる。30%近い生徒をいかに楽しく作業に参加させるかが課題である。70%近い生徒が班で模造紙にまとめる作業が楽しかったと答えており、作業段階での興味、関心は高められた。
- エ 事後の質問7と8からは、自分が発表するのは楽しくないが、友達の発表を聞くのは楽しいという実態がわかる。
- オ 事前の質問2と事後の質問11を比較すると、歴史の授業は好きであるという生徒が16%増えている。事後の質問9では、人物研究をもう1度やりたいという生徒が70%を越えており、今回の人物学習の授業の評価は十分得られた。

〔前杉並区済美教育研究所鈴木明彦氏開発のアンケート分析ソフト使用〕

6 資 料

調査カード

<p style="writing-mode: vertical-rl;">人物研究</p>	<p>番</p>	<p>組</p>	<p>2年</p>	<p>年生～</p>	<p>年級)</p>				
<p>1. 人物名 <input style="width: 100px;" type="text"/></p>									
<p>2. 年譜 <input style="width: 100px;" type="text"/></p>									
<p>年代</p>	<p>おもなできごと</p>					<p>日本の動き</p>			
<p>3. 生い立ち・人物・考え方</p>									
<p>4. 代表的なできごと</p>									
<p>5. 時代背景</p>									
<p>6. 歴史的役割</p>									
<p>7. 調べた本</p>									
								<p>(似顔絵を書いてみよう)</p>	

# 今日から

## 日米親善条約をむすぶ

日米親善条約の締結は、日米両国民の間に親善と友好の精神を醸成し、平和と協力の道を拓くこととなる。この条約は、日米両国の利益を保護し、世界の平和と安定に貢献するものである。

### 日米親善条約の概要

- ① 日米両国は、この条約を締結し、互に親善と友好の精神を醸成し、平和と協力の道を拓くこととする。
- ② 日米両国は、この条約を締結し、互に利益を保護し、世界の平和と安定に貢献することとする。
- ③ 日米両国は、この条約を締結し、互に平和と協力の道を拓くこととする。

### 日米親善条約の意義

日米親善条約の締結は、日米両国民の間に親善と友好の精神を醸成し、平和と協力の道を拓くこととなる。この条約は、日米両国の利益を保護し、世界の平和と安定に貢献するものである。

### 日米親善条約の締結

日米親善条約は、日米両国民の間に親善と友好の精神を醸成し、平和と協力の道を拓くこととなる。この条約は、日米両国の利益を保護し、世界の平和と安定に貢献するものである。

# やじり馬

## かから版

### 慶喜ついに大政奉還!

今日日本第十五代将軍徳川慶喜が、大政奉還を遂行し、皇位を譲ることに決めた。これは日本の歴史に大きな変革をもたらすこととなる。

### 徳川慶喜の生涯

徳川慶喜は、徳川幕府の第十五代将軍として、日本の歴史に大きな変革をもたらすこととなる。

### 大政奉還の経緯

大政奉還の経緯は、徳川慶喜の生涯と密接に関連している。

### 大政奉還の意義

大政奉還の意義は、日本の歴史に大きな変革をもたらすこととなる。

### 大政奉還の未来

大政奉還の未来は、日本の歴史に大きな変革をもたらすこととなる。

## 7 研究のまとめと今後の課題

歴史分科会では、「主体的な活動を通して、生徒の学ぶ意欲、興味・関心を高め、歴史的思考力を育てる指導法の工夫」を主題として研究を進めた結果、次の点を明らかにすることができ、また今後の課題が明確になった。

### (1) 研究のまとめ

ア 生徒が主体的に活動できる指導法の工夫として、調査・発表・討論を授業に盛り込むことによって、生徒個人個人で多少の差はあるものの、意識の変容がみられた。調査段階で本の丸写しの状態であったのが、人前で発表をすることになっていたため、様々な工夫を凝らしていた。調査・発表・討論のポイントを整理させることによって、その後の手順がスムーズになり、一層生徒の主体的な活動を促すことになった。

イ 様々な人物学習を通して、歴史学習に対する生徒の興味・関心を高めさせることができ、放課後自ら進んで学校の図書室や近隣の図書館に調査に出向く生徒がかなりの数あった。授業においても、生徒中心の発表形式をとったことから、生徒自身の積極的な発言を呼び起こし、活発で人間味ある授業となった。

ウ 人物の果たした歴史的役割を理解させることによって、人物や歴史的事象に対する多角的な見方を育成することができ、さらに歴史的思考力をも高めることができた。生徒自身がその人物になりきって、意見を主張していくなかで、様々な見方・考え方をすることもあった。調査・発表を土台とする討論の中で、幕末史だけでなく、鎖国や幕藩体制の問題点やその当時の世界のいろいろな国の状況などまで踏み込むこともあり、歴史的事象を比較する能力まで高めることができた。

エ 人物学習を通して、時代全体を理解させることに関しては、人物調べのポイントをしぼることによってぼやけてしまうこともあった。その点に関しては導入の段階に年表で確認をさせることによって補強した。その上で特色のある人物を取り上げ、比較・対比などをさせることによって、その時代の全体像を深めさせることができた。

### (2) 今後の課題

本研究を通して、人物学習に焦点を当て、調査・発表・討論をもちいて授業を展開することが、生徒の主体的な活動を促し、歴史的思考力を育成するうえで有効な指導方法であることがわかった。この取り組みをより効果的に活用するためには、指導計画全体の中に計画的に位置付ける必要がある。さらに女性・身近な地域の人物・歴史的評価の定まらない人物などを取り上げる教材の開発を行い、様々な角度から人物学習を進めたい。

授業方法としては、授業における教師の役割、司会の生徒に対する指導、発表しない班の生徒に対する指導、学習用の図書の整備、発表における視聴覚教材の利用、発表に対する適切な助言・援助、生徒の調べ時間・まとめ時間の確保などが課題であると考えられる。

評価については、事前と事後に実態調査を行い、生徒の変容を把握し、さらには次回への意欲を引き出す効果的な計画をたてるとともに、様々な新しい取り組みを実施していくことが今後の課題であり、継続して研究を続けたい。

### Ⅲ 公民的分野の研究

生徒が主体的に学習し、思考力・判断力が高まる授業の工夫

－自ら課題を見つけ、探求する「政治参加」の学習－

#### 1 主題設定の理由

公民的分野の目標の一つに、「社会的事象を確実な資料に基づいて様々な角度から考察し、事実を正確にとらえ、公正に判断する能力と態度を育てる。」とある。しかし、従来の授業では、生徒は教師から与えられる知識や課題をこなすことに安心を覚え、生徒自らが考え、判断するということが、あまりなされてこなかった。そこで、本分科会では、生徒自らの考えを深め、判断力を高めるためには、生徒の主体性が重要であると考えた。

まず、生徒が主体的に学習するとは、生徒自らが疑問や課題をもち、これを自ら調査し解決していく中で自分の意見をもち、それを発表し、意見交換ができ、さらに一歩進み、社会のさまざまな事象に対し積極的にかかわろうとする姿勢・態度を身に付けることである、と考えた。

また、自分の考えをより高め、深めるためには、研究成果の発表や意見交換を行い、他の人の様々な意見を聞き、賛同したり意見をたたかわせたりすることが必要である。

そこで、興味・関心をもちやすく、疑問や課題を見つけやすい身近な単元ということで、選挙の意義を中心に「政治参加」をテーマに取り組むことにした。5年後には主権者となり、実際に選挙権をもち、投票する立場になる彼らが、現在の選挙の仕組みや選挙のもつ重要性和現実を知り、現在の選挙のもつ問題点を自分のものとしてとらえ、自分たちはぜひ選挙に行こうという立場に立てるようにしたいと考えた。

こうしたことから、選挙を題材に学習過程の構成を工夫し、課題解決学習の手法を取り入れた調査活動、発表、討議を一連の流れとした授業方法に取り組むことにした。自ら「課題を設定」し、次に行う「調査」に対する興味・関心を引き出す。次に、課題を自ら調べることで主体性を引き出すとともに、さまざまな資料やデータを選択し活用する力を養う。次に「発表」することで知識の共有を図ると同時に、知識をより深いものにする。ここまで手にいれた「知識・興味・関心」をもとに「討議」を行い、「思考力・判断力」をより高めようと考えた。

この一連の方法をとることで、主体的に学ぶ意欲・態度が育ち、学習活動を通し、成就感や満足感が得られる。結果として、生徒の思考力・判断力が高まり、より主体的に物事にかかわる姿勢が身につくと考え、上記の主題を設定した。

#### 2 研究のねらいと方法

##### (1) 仮説

- ① 生徒自ら学習課題を設定し学習の計画や手だてを明確にすることで主体的に活動に取り組む。
- ② 自ら調査・発表・討議などの課題探究を行うことで思考力・判断力が高まり、社会的事象に主体的にかかわるようになる。

## (2) 方法

前記の仮説を以下の方法で検証する。

### ア 単元の学習課程の工夫

単元の学習課程を次のように工夫した。

#### 学習課題の設定

留意点 生徒の実態をできるだけ正確につかみ，学習課題を身近な問題としてとらえられるようにする。

- 方法
- ① 実態調査を行う。
  - ② 関心・意欲を高めるために多様な学習方法を行う。
  - ③ 教材（実物や見本，VTRなど）の準備。



#### 課題の探究

留意点 調査活動がしやすいような援助やアドバイスを積極的に行う。

- 方法
- ① 図書館からの団体貸出し。
  - ② 参考になる関係諸機関の一覧表の作成。
  - ③ 新聞資料の整理。



#### 探究の成果の発表

留意点 どのような点に注意して発表すればよいのかあらかじめ指導しておく。

- 指導項目
- ① 寸劇や紙芝居など発表方法を工夫しわかりやすく，おもしろいものにする。
  - ② 発表の中に自分なりの主張や改善案をはっきり出すこと。
  - ③ 原因をしっかりとつかむこと。
  - ④ その問題について，現在の対応がどのようになっているのかをつかむこと。



#### 討議

留意点 主体的で活発な討議活動になるようにする。

方法 意見がでないときにはグループに分けての討議にするなど工夫する

### イ 授業実践

次の点に留意して授業実践を行う。

- ① 事前テスト，事後テストを行う。
- ② 観察対象生徒の変化を追う。
- ③ 授業記録を採る。

### 3 指導計画

(1) 項目 「国民の政治参加」

(2) 指導目標

ア 国民の意思を十分に反映した政治が行われるためには、将来の主権者である生徒一人一人が政治に対する関心を持ち、政治学習を通して主権者であるという自覚を高めることが大切であることがわかる。

イ 選挙は国民の意思を政治に反映させるための主要な方法であり、議会制民主主義を支えるものであることを理解する。

ウ 国民の意思が表れるものが世論であり、その世論に大きな影響をあたえるものがマスメッセージであることに気づく。

エ 議会制民主主義の運用上重要な役割を果たしているものに政党があることを理解する。

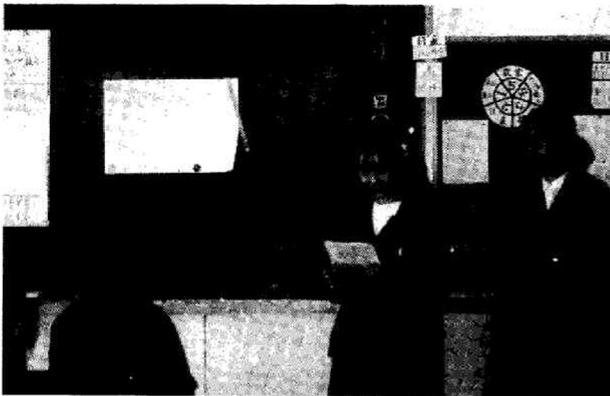
(3) 指導計画

主 な 学 習 内 容 ・ 学 習 活 動	
	事前アンケートを行い、生徒の知識・理解の様子を知る。
第 1 時	<p>[政治、特に選挙に対する関心をもたせる]</p> <p>① 地元の選挙管理委員会の人を呼んで話を聞くか、またはVTRで録画したのを見る。</p> <p>② 感想や疑問をまとめる。</p>
第 2 時	<p>[個人の課題づくり]</p> <p>① 第1時の感想や事前アンケートの結果などを発表する。</p> <p>② 教科書や資料集なども活用して、気になったことや疑問に思ったことを調べる。</p> <p>③ 調べた結果から課題を決め、短冊に書く。</p>
第 3 時	<p>[グループの課題づくり]</p> <p>① 第2時の短冊を貼り出す。</p> <p>② 短冊を参考にして、もう一度課題を個人で考え直す。</p> <p>③ 班ごとになって自分の学習課題を発表し合い、話し合う中で班としての課題を1つにしばる。</p>
第 4 時	<p>[調査方法の決定・調査計画の作成・調査活動]</p> <p>① 班ごとにどのような調査を行うのか、また仕事の分担などの調査計画を立てる。</p> <p>② 計画に基づいて調査活動を行う。</p>
第 5 時	<p>[発表方法の決定・調査のまとめ・発表の準備]</p> <p>① 班ごとにどのように発表するかを話し合い、発表方法を決め、役割分担を行う。</p> <p>② 調査のまとめを行う。</p> <p>③ 発表の準備を行う。</p>

第 6 時	<p>[調査結果の発表]</p> <p>① 1班から順に発表を行う。発表には各班の主張を盛り込む。</p> <p>② 各班の発表ごとに、わからない語句・内容について質疑応答を行う。</p> <p>③ 各班の主張のポイントをワークシートに記録しておく。</p>
第 7 ・ 8 時	<p>[各班の主張に対する討議、まとめ]</p> <p>① 各班の主張を確認する。</p> <p>② 各班の主張に対する意見を述べあう。</p> <p>③ 感想を書く。</p> <p>④ 事後アンケートを行い、事前とどのように変化したかを確認する。</p>

(4) 評価の観点

- ① 課題の探求や解決に進んで取り組み、協力することができたか。(意欲・態度)
- ② 自分との関わりを考え、国民の政治参加について興味・関心をもつことができたか。  
(関心・意欲・思考)
- ③ 国民の政治参加のあり方について自分の考えをもつことができたか。(思考)
- ④ 主権者としての自覚をもち国民の政治参加について適切な判断が行えたか。(判断)
- ⑤ 学習課題について資料を適切に活用し調べ、分かりやすく発表することができたか。  
(資料の活用・表現)
- ⑥ 課題の探求や発表を通して、選挙、政党、世論、マスコミュニケーションなどの仕組みや働きについて理解することができたか。(知識・理解)



#### 4 検証授業

〈第1時〉 政治，特に選挙に対する関心をもたせる

##### (1) 本時の目標

- ア. 選挙管理委員会の人話を聞き，単元に対する興味・関心をもつ。
- イ. 周囲の人の意見を聞き，自分の考えを具体的にしていく。

##### (2) 展開

時	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価の観点 資料
導入 10分	1. 事前アンケートに答える。  選挙について知っていることを発表しよう		・事前学習テスト 知識・理解 ◎選挙についてどれくらいの知識をもっているか
展開 30分	〈予想される生徒の発言〉 ○青島氏が都知事になった。 ○宣伝カーが名前を連呼，等。 2. 選挙管理委員会へ取材したビデオを全員で視聴する。  話の内容や疑問に思ったことを質問できるようにメモをとろう	★あまり深入りをしない	関心・意欲 ◎意欲的に発表しようとする姿勢が見られたか ・取材ビデオ ・テレビ ・ビデオデッキ ・ワークシート1
	3. 疑問点を質問する  話の内容で疑問に思ったことを発表しよう		関心・意欲、資料活用 思考・判断 ◎ビデオを見て，疑問点や問題点をメモしようとしているか。
まとめ 10分	〈予想される生徒の発言〉 ○不在者投票はどうやるのか、 ○なぜ，投票率が下がってきたのか，等。 4. 自分の感想をまとめ，他の人の感想を聞く。  本時の話を聞いて自分の感想をまとめよう	★語句に関する質問は教師が答えるがその他については自分で調べるように促す。	思考・判断 ◎選挙についての問題点を多面的にとらえて考えているか。
	他の人の感想を聞こう	★各人が選挙についてどのようなことを感じているかを互いに確認しあえるように配慮する。	関心・意欲、思考・判断 ◎自分の意見をしっかりと考えているか。 ◎人の意見をしっかりと聞いているか。

##### (3) 評価

- ア. 選挙について，学習意欲の向上が図れたか。
- イ. 周囲の人の意見を聞き，自分の考えを具体的にすることができたか。

〈第7時〉 各班の主張に対する討議

(1) 本時の目標

- ア. 主張に対する討議を通じて、選挙に関するさまざまな問題や世論とマスコミ、政党についての理解を深める。
- イ. 発表内容を正確に聞き取り、それに対する自己の意見を、確実な資料に基づいて論理的に述べる。

(2) 展開

時	学習活動・学習内容	指導上の留意点	評価の観点 資料
導入 5分	1. 前時末の各班の主張のポイントを 確認する。 2. 自分の質問事項をワークシートで 確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         各自の質問事項を確認しよう                     </div> 3. 各班の主張に対する討議をする <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         できるだけ資料を使って質疑応答しよう                     </div>	★要点を整えて掲示する	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時末に各班から提示された主張ポイントカード</li> <li>関心・意欲</li> <li>◎前時ワークシートに質問事項があるか。</li> <li>関心・意欲</li> <li>◎発言が活発か。</li> <li>知識・理解</li> <li>◎政治経済用語が正しく使われた討議になっているか。</li> <li>資料活用</li> <li>◎資料を十分に活用しているか。</li> <li>・教科書・資料集</li> <li>・各班用意の資料</li> <li>・新聞</li> <li>・行政広報等</li> <li>思考・判断</li> <li>◎さまざまな角度から政治参加の意義を考えているか。</li> <li>・前時と同じ問いを含むワークシート</li> </ul>
展開 35分	<予想される生徒の発言> ①選挙に行こう！ ・宝くじめあてでいい選挙ができるか、等 ②1票の格差をなくそう！ ・平等な選挙区割りはできるのか、等 ③選挙とは！ ・政党の役割を教えて欲しい、等 ④選挙区制について ・財力のある人だけしか立候補できないのか、等 ⑤マスコミの役割と問題点 ・報道は公正か、等。 4. 自分の考えをまとめる <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;">                         政治参加について、自分の考えをまとめてみよう                     </div>	★進行役として主体的討議となるよう心がける配慮する。 ★既習の政治経済用語が正しく使われるよう配慮する。 ★各種資料に基づいた議論になるようにする。 ★5年後の有権者という意識をもたせる助言を心がける。	
まとめ 10分	5. 事後アンケートを行う。	★正直に書かせる。	

(3) 評価

- ア. 選挙・マスコミ・政党についてさまざまな視点から考察できたか。
- イ. あふれる情報を適切に自己選択することが、公正な世論の形成の礎であることに気付いたか。
- ウ. 正確な意見聴取と確実な資料に基づく自己主張が展開できたか。
- エ. 選挙の重要性が理解でき、“5年経ったら選挙に行こう！”と思ったか。

## 5 検証授業の考察

調査・発表・討議という学習形態で8時間構成で授業を進めていったが、ここでは、指導計画全体についての考察を述べていきたい。

第1時の導入で選挙管理委員会から借りてきたビデオ、7月に行われた参議院選挙の氏名等掲示、日頃から使用している資料集を用いたが、生徒は投票率の低さや、数多くの政党があることなどを知り、興味、関心をもつと同時に問題意識をもち得たことは次時以降の調査活動を意欲的なものにした要因といえる。本来の計画では選管の方に来ていただく予定であったが、それができず残念ではあったが、導入の大切さをあらためて認識するとともに、多様な学習活動が必要であると感じた。

調査活動は非常に積極的に行われ、図書館に行くのは勿論のことで、選挙管理委員会に出向くもの、新聞社、あるいはテレビ局などに電話するものと多彩であり生徒たちの行動力には驚かされた。

学校においては調査の時間として確保したのは1時間だけであったが、生徒はよく資料を集め、各班が発表のための原稿作りや、模造紙への記入など有効に使っていた。しかし、中には思うように資料が集まらず、ほとんど何もできずに1時間を終えてしまった班もあった。

発表においては、次時以降の討論をより活発なものとし学習内容を深めていくため、各班のもった課題に対しての主張や具体策などを提示するよう指導した。いくつか例をあげると、投票率をあげるための「選挙宝くじの採用」「投票日を1日増やす」や、1票の格差をなくすため約9,200万人の有権者を500（衆議院の定数）で割り、「議員1人当りの有権者の数を一定にする」あるいは、政治に関心をもつため「1日1時間はニュースを見よう」などユニークな提案もあった。また寸劇を行い選挙制度についておもしろおかしく説明し発表を盛り上げた班もあった。討議では、主張や具体策などがはっきりしているので、日頃あまり発言しない生徒も積極的に討議に加わり、生徒同士の活発な意見交換ができた。例えば「選挙宝くじ」という方法についての話し合いでも、はじめは方法論として有効かという問題のみであったが、討議が進むにつれて、「はたして、そんなことで行う投票が意義があるのか？」という本質の問題にまで及ぶようになった。

いくつか生徒の感想を紹介すると

○「今の政治で国民の意志が反映されていないのは、国民が代表者を選ぶ（選挙）判断力が欠けていることも大きな問題だと思いました。また、選挙で投票率が少ないことも原因の一つなのだと思います。国民一人一人が政治をかえていこうという気持ちを持つことが大切です。何にも行動を起こさなかったら変わらないけど選挙に行くようにするという、小さいことだけどみんなできれば大きなことになって返ってくるんだと思えるようになりました。」

○「私も現代の20代の人達と同じように政治にあまり関心がなかった。でもこの勉強をしていくうちに私たちもちゃんと政治に関心を持ち、投票にいかないと、いつまでたってもよい政治にならないということがわかった。だから20才になって選挙権が持てたら、必ず投票しにいこうと思います。」

○「調査・発表・討議」という形でやることによって自分自身で勉強する姿勢が身につきました。社会に興味をもつようになり勉強も楽しくなりました。討議では自分の気付き

ないところに他の人の意見があり、とても役に立ちました。』

これらの感想からもわかるように調査・発表・討議ということを通して、社会的事象に興味・関心を持ち、実生活に反映させようという姿勢がうかがえ、気持ちの変容が見られた。さらに、討議が活発に行われることによって人の意見を聞き、また自分の意見をまとめていくということで確実に思考力、判断力の高まりも見られ、本研究のねらいを達成するために有効な学習方法であったといえよう。

最後にこうした授業を通してあらためて感じたことは、教師が生徒とどのようにかかわっていくかということである。教師が司会役、アドバイザーとして徹しなければ真の討議につながっていかない。このような授業をより意義あるものにするために生徒理解のうえに立って、学習材の研究や授業の構想をする教師の役割はさらに大きくなるといえよう。

事前テストの質問事項

- あなたは新聞を読みますか。  
Aほとんど毎日 B週に何回か Cときどき Dほとんど読まない
- あなたはテレビのニュース番組をみますか  
A いつも見るニュース番組がある。  
B ニュース番組をさがして見ることもある。  
C ニュースをやっているときは見る。  
D ほとんど見ない。
- 政治についてのニュースに関心はありますか。  
Aとてもある B関心は持っている Cあまりない Dほとんどない
- 「国民主権」とか「政治を動かすのは一人一人の国民である」といいますが、今の政治で「これが政治を動かしていく国民の力だ」といえるものや、あなたが実感した出来事などがあればあげてください。
- 政治のやり方でおかしいと思うこと（たとえば官官接待のような税金の使い方など）があったときに、一人の国民としてあなたはどのように思うと思いますか。  
ア そんなに気にもならないので特に何もしない。  
イ 何をしたらよいかわからないので特に何もしない。  
ウ 何かをしたい。でも何をすべきかわからない。  
エ ( ) のようなことをする。

事後テストの質問事項

- 授業を終えて、新聞やテレビのニュース番組についての関心の持ち方は変わりましたか。  
A もともとよく見ていたが、より関心を持って見るようになった。  
B 今まであまり見ていなかったが、見るようになったと思う  
C 今まであまり見ていなかったが、見たほうがいいと思うようになった。  
D 今までとあまり変わらない。
- 授業を終えて、政治や選挙について関心を持つようになりましたか。  
Aとてもある B関心は持つようになった Cあまりない Dほとんどない
- 事前テストの4と同じ
- 事前テストの5と同じ
- 「国民の政治参加」でこれから調べてみたい課題を書け。
- 調査をしたり、発表を聞いて話し合いをすることで「国民の政治参加」についてどのような意見を持つようになりましたか。
- 調査・発表・討議という授業について感想を書いてください。

事前テストと事後テストに見られる生徒の変容

NO	1	2	1	3	2	4	3	5	4	5 (テーマ名)	6	7	発言数
1	A	B	B	B	B	-	ウ	ウ	ウ	議員の給与	B	A	4
2	A	A	B	B	B	○	ウ	ウ	ウ				
3	D	C	D	D	B	-	ウ	ウ	ウ	マスコミ	A	B	
4	A	D	B	C	B	-	ウ	ウ	ウ	未来	D	B	
5	B	D	C	B	A	○	ウ	ウ	ウ	政党について	A	A	4
6	A	C	D	B	B	○	ウ	ウ	ウ	国民の政治参加	B	C	
7	A	D	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ		C	B	
8	A	A	D	B	A	-	ウ	ウ	ウ	なし	B	B	
9	A	C	B	C	B	○	ウ	ウ	ウ	議員の給与	B	A	
10	A	D	C	C	B	○	ウ	ウ	ウ	社会と政治の関係	B	B	3
11	B	C	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ	選挙費用	C	D	5
12	A	C	B	C	B	○	ウ	ウ	ウ	なし	C	B	5
13	A	C	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ		C	B	
14	A	C	A	C	B	○	ウ	ウ	ウ		C	B	
15	A	D	C	D	B	-	ウ	ウ	ウ		A	B	

NO	1	2	1	3	2	4	3	5	4	5 (テーマ名)	6	7	発言数
31	A	C	B	C	B	○	ウ	ウ	ウ	マスコミ	B	C	2
32	A	A	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ	政治家の給与	B	C	3
33	A	A	A	D	B	-	ウ	ウ	ウ	裁判	C	B	1
34	A	A	C	C	C	○	ウ	ウ	ウ	選挙への関心	A	A	2
35	C	C	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ	金銭選挙	A	A	
36	B	C	B	C	B	-	ウ	ウ	ウ	外国と日本の政治	B	A	1
37	C	A	C	B	B	-	ウ	ウ	ウ		C	A	5
38	A	A	B	C	B	○	ウ	ウ	ウ	政治の発展	A	A	2
39	A	C	C	C	C	○	ウ	ウ	ウ	世界の政治	B	A	3
40	C	C	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ	村山首相	A	A	1
41	B	A	A	B	A	○	ウ	ウ	ウ	裁判所	A	A	
42	A	D	C	C	B	-	ウ	ウ	ウ		B	B	
43	A	C	B	B	B	-	ウ	ウ	ウ	選挙の仕組み	A	A	
44	C	B	B	B	A	-	ウ	ウ	ウ	選挙活動	A	A	
45	A	A	B	C	B	-	ウ	ウ	ウ	裁判	A	A	
46	-	D	-	D	-	-	ウ	ウ	ウ		C	B	2
47	A	B	A	A	A	○	ウ	ウ	ウ	国民主権	B	A	1
48	C	A	C	B	A	-	ウ	ウ	ウ	政治の発展	A	A	10
50	C	C	C	B	B	○	ウ	ウ	ウ	官憲政治	B	A	11

- 記入例
- ① 事前テスト ... 事後テスト
  - ② 事前テスト4・事後テスト3で記入あり ... 記入なし ... 空欄
  - ③ 事後テスト6の評価基準
    - A: 国民の政治参加の大切さを認識し、自分はどうすると主張する
    - B: 国民の政治参加を強く認識する。自分自身についてはふれられていない
    - C: 国民の政治参加が大切であることがなんとなくわかった。
    - D: 授業でやった一部分のみ理解している。
  - ④ 事後テスト7の基準
    - A: 授業が楽しい、討論などで考えが広がると記述。
    - B: 授業が楽しかったと記述。
    - C: 授業についての感想なし。問題点の指摘あり。
    - D: 問題点があるためによくないと記述。
  - ⑤ 発言数は第7時の討論のときに発言した回数。

氏名

①導入の課題設定（疑問点）の調査（調べら）の発表 討論（質疑応答）

②単元名（授業内容） 11月～12月 国民の政治参加

③課題設定（自分が考える疑問・問題点）

・選挙区によって得票数の差  
・選挙運動のための資金によって決まる選挙の結果  
・政党の役割

④課題設定（自分が考える疑問・問題点）

選挙をめぐっての政治的  
争いがあるのか、どのような選挙をするのか  
の点

⑤課題設定（自分が考える疑問・問題点）

マスコミについて、日本は  
第二次世界大戦で大きな影響を受けた。この戦争の間、日本の国民は商業上の利益を重視  
したマスメディアによって流されたその情報で日本は勝つと信じこまされてきた。  
マスメディアによる影響はとても大きいものなのでそれによる問題もとても多いのでは  
ないか？

- ・政党の役割
  - ・選挙管理委員会のおもな仕事
  - ・選挙運動にはどうしてお金がかかるのか
  - ・一票の重さというのは何故おこるのか（一票の格差の問題）
  - ・何故、選挙区に違いがあるのか
  - ・公職選挙法とはどういうきまりか
  - ・比例代表制では自分が希望する人に投票できないのではないか
  - ・選挙公営や選挙区制などいろいろなきまりのこと
  - ・大選挙区制と小選挙区制の違い
  - ・比例代表制と小選挙区制
  - ・投票率が低いのはなぜか
  - ・金権選挙
  - ・政党の移り変わりについて
  - ・国政選挙と地方選挙の違い
  - ・有権者数の人数と当選者の数
  - ・選挙の種類としくみ
  - ・選挙に何故多額の資金がかかるのか
  - ・投票はどのように行われ、誰がどのように票を数えるか
  - ・何故、中選挙区～小選挙区制に変わったのか
  - ・選挙とは
  - ・選挙資金と選挙の結果
  - ・マスコミについて
- (日本は戦争で大きな影響を受けた、この戦争の間、日本の国民は商業上の利益を重視したマスメディアによって流されたその情報で日本は勝つと信じこまされてきた。マスメディアによる影響はとても大きいものなのでそれによる問題もとても多いのではないか)
- ・選挙当選するまでの過程
  - ・政党政治のしくみ
  - ・与党と野党の役割

ワークシート 話し合いをして意見を持とう

3年組 番氏名

班	課題	各班の主張	班の主張に対して自分の意見	話し合い後の自分の意見
1	選挙に行こう!	1. TVラジオ新聞を通して最近の政治に関することをみんなに知らせる。 2. 選挙日を増やす。 3. 選挙日を平日にして仕事を午後休みにする。(午前は可) 4. 選挙区制をつくる。	それはとても共感しました。学校で学んでいるだけでは、社会に生きていくと実際の社会全体で選挙に行かないと環境をつくる事はとても大事だと思います。	右側に費用のことや問題点について思いついた。私は、この班に賛成せず。11月17日よりも良いと思う。その点については、私も賛成する。
2	一票の格差	全国の有権者 9200万人 票 500人 共 126億 1票あたり 136票 126億/200万 126/200万 126人の中から1人 136人の中から1人 選挙区制の格差が行く。	私は思いついた。私は、合理的な理由があるから、これを認めるのは、とてもよいと思う。とよいと思う。	
3	マスコミと選挙費用	国民の意見を反映する マスコミ 選挙費用はもと自分負担すべき。	選挙費用を自分で負担した場合、お金の格差が広がるといって、選挙区制をなくすると、マスコミの役割がなくなる。たまたま、お金の格差が広がる。お金の格差が広がる。お金の格差が広がる。	
4	選挙区制について	小選挙区制と比例代表制の両方のいいところがある。両方の選挙制度がよい。	今の比例代表制は、お金の格差の問題がある。一票の格差の問題がある。お金の格差の問題がある。	
5	マスコミの役割と問題点	マスコミがないと世界の情報が届かない。01日1時間、ニュースを見る。新聞、よるや、お金の格差の問題がある。お金の格差の問題がある。お金の格差の問題がある。		

## 6 研究のまとめと今後の課題

### (1) 研究のまとめ

今回の研究によって明らかになったことについて、研究仮説にそってまとめる。

仮説① 生徒自ら学習課題を設定し学習の計画や手だてを明確にすることで主体的に活動に取り組む。

- ① 単元に入る前に政治に関する意識調査を行ったことは、生徒が政治との関わりを考え、いく上で有効であった。特に、政治を動かしているのは国民一人一人であることは知識の上ではわかっているが、実際の感覚としては国会議員や総理大臣との意識が強く、生徒たちにも自分の中での意識のズレが感じとられ、解決しようとする意欲が促せた。
- ② 生徒自らが学習課題を設定するためには、生徒の生活経験から思考できるものや生徒が疑似体験のできる学習材を導入に用いることが必要である。本研究では、選挙管理委員会に行き、選挙管理委員会の人の話をビデオに収録させた。そこで説明を受けたことや体験したことによって生徒は「選挙」を身近に感じることができ、学習に対する意欲の高まりが見られた。また、それ以外でも選挙管理委員会で貸出をしてくれる投票箱や記載台などを利用して選挙を疑似体験させることも意欲を高める上では有効であろう。
- ③ 個人での課題設定のための時間やグループでの課題設定のための時間を十分に確保した。生徒一人一人がいただいた問題意識を大切に、予想を考えさせることによって学習意欲が高まり、調べてみようとか聞きに行ってみようという意欲の高まりがみられた。

仮説② 自ら調査・発表・討議などの課題探求を行うことで思考力・判断力が高まり、社会的事象に主体的にかかわるようになる。

- ① 生徒一人一人の思考力・判断力を高めるためには、個人の考えを大切にしながら、グループで討議をすることでさらなる課題を設定し、新たな課題に対して追求・討議活動をする授業法は有効である。生徒の感想として、「だれが当選しても国は変わらない、という理由で選挙に行かない人が多いと私も思っていました。その原因として、選挙で選ぶときの正確な判断が必要なんだと思います。そして、当選者が国を変えるのではなく、国民、私たち一人一人なんだと思いました。」「国民一人一人が政治を変えていこうとする気持ちを持つことが大切です。何も行動を起こさなかったら変わらないけど、選挙に行くようにするという小さなことだけど、みんなでやれば大きなことになって返ってくるのだと思いました。」とあるように、生徒一人一人が選挙を自分のこととして考え、判断するようになった。
- ② 調査を進めていく上で、実際に多く利用した場所は学校の図書室であったが、調査のための手だてとして選挙管理委員会や公立の図書館の書籍などを紹介した。その結果、生徒自らが、足を運び話を聞くことによって、さらに考えていこうとする姿勢が形成された。
- ③ 討議にはいる前に、各グループに自分たちの主張を再度整理させ発表させた。それによって、各グループ間の意見の対立点が明確となり討議が活発化された。また、各グルー

プの主張の後に、個人で考える時間とグループで考える時間をとったが、自分の考えを整理し、他の者の意見を参考にして自分の考えをより深めていく上で有効であった。

(2) 今後の課題

調査・発表・討議活動を通して思考力・判断力を高めていく学習を進めていく上で次のような課題が明確になった。

① グループの問題

今回は、グループを学級の生活班としたが、個人の考えを大切にしていくためには、同一課題を追求する生徒で編成するなどグループの形成をさらに工夫する必要がある。

② 課題の絞り込みの手だての問題

あるグループは「選挙とは」という課題を設定していた。課題が広範囲であるとともに、調査内容も多岐にわたってしまったため、発表全体がまとまらなくなってしまった。個人の課題設定の段階やグループでの課題設定において有効な手だてを考えていかなければならない。また、主体的に生徒が学習を進めていく上で、教師の役割はどうあるべきかを今後も検討していかなければならない。

③ より充実した発表・討議の方法の問題

今回は生活班（5班）すべて発表を行い、すべての課題に対して討議を行った。その結果、発表・討議の時間が十分に確保できず、まだ、自分の意見を言いきれなかった生徒もいた。また、発表の内容を聞き取れなかったりメモしきれなかった生徒もいた。発表する班を減らし、発表内容を深めさせたり、討議するテーマを絞り込むことなども必要であった。発表や討議をより深めていくにはどうしたらよいか工夫していく必要がある。

④ 評価の問題

評価基準を考えることはたいへん重要なことである。生徒の思考力・判断力の高まりは生徒の資料からも判断できるが、それを評価するための基準が必要であった。自己評価や相互評価を取り入れることはこれまでの研究でも行われてきた。さらに今後は生徒にこうなって欲しいという価値観を含んだ評価基準を明確にしていくことも必要である。